

かさかけ 公民館だより

編集
笠懸公民館報編集協力員会
みどり市笠懸公民館
発行
みどり市笠懸公民館
〒379-2311
みどり市笠懸町阿左美1581-1
電話：0277-76-2211
FAX：0277-76-2836
Eメール：kouminkan
@city.midori.gunma.jp



▲ 石井教育長(右)へ要望書を手渡す上山会長(中央)

10月13日(火)「みどり市笠懸公民館利用者の会」上山利夫会長と新井栄副会長がみどり市教育庁舎を訪れ、公民館へのWi-Fi設置の要望書を石井逸雄教育長に手渡しました。

要望書では、①インターネットを通じての学習の機会が増え、Wi-Fiは社会教育施設には必要不可欠な設備になっている。②子ども

たちにタブレット等を活用したオンラインの学習機会が増えてくる中でWi-Fiを公民館に設置することは、学校教育の一翼を担うことができる。③笠懸公民館は避難所としても利用される避難者が求めるものは情報であり、情報インフラの整備は必須課題である。以上3つの理由から公民館にWi-Fi設置を求めています。

石井教育長は「生涯学習をより深めていくためにもオンライン環境の整備は必要と考える。教育委員会だけではなく、他の公共施設も含め、市全体で検討すべきこと。いただいたご意見は重く受け止めさせていただきます」と応えていました。

オンライン化に向けて 利用者の会が要望書を提出

子どもたちが好プレー!!

はじめてのポッチャ教室

10月24日(土)9時半から笠懸公民館交流ホールで「はじめてのポッチャ教室」が開催されました。親子5組が参加し、講師のみどり市教育委員会社会教育課・岩下浩明さんとみどり市スポーツ推進委員7人の協力のもと、ルールや道具の説明が行われ、参加者は初めてのポッチャにチャレンジしました。

げたり、転がすことができず苦労していました。練習ゲームを繰り返すうちにだんだんコツをつかんでいき、作戦も重要だということも分かり徐々に慣れてきました。後半は5組総当たりのリーグ戦形式でゲームを行い、それぞれが一投ごとに一喜一憂し、初めてのポッチャを楽しんでいました。

ポッチャとはパラリンピックの正式種目で、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤、青のそれぞれ6球ずつボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。



▲ 親子で作戦を相談しながら真剣勝負

青空の下で運動会

お母さんと一緒教室

第4回お母さんと一緒教室は10月16日(金)、笠懸野文化ホール野外広場で「運動会」を行いました。

秋晴れの青空の下、6組の親子全員の参加です。

根岸先生とみんなで「アンパンマン体操」と「ラジオ体操」から始まりました。かけっこやお菓子取り競争、でかばん競争、玉入れ、綱引きなど初めてのことで、子どもたちは戸惑いながら



▲ どの色の風船にしようかな



色々な体験をした1日になりました。

もも母さんと一緒に楽しんでいました。玉入れて相手チームのかごに入れたり、綱引きでは、引っ張らずに綱を持って真ん中によって来たり、笑いの絶えない運動会でした。

いっばい頑張ったごほうびは手作りのメダルです。先生から首にかけてもらい喜んでいました。

10月は「ハロウィン」があるので、笠懸公民館内のロビーに移動し、魔女に扮した公民館の職員からお菓子が配られました。魔女の容姿にびっくりした子どもたちはお母さんに抱きついたり逃げ惑う子まで見受けられました。

「コロナ禍での活動は

群馬県社会教育研究大会・社会教育委員会議

令和2年度群馬県社会教育研究大会が11月6日(金)にWeb会議システムによるオンライン研修で開催され、みどり市は笠懸公民館を会場として行われました。

長年、社会教育委員へご尽力頂いた方として、みどり市からは社会教育功労者

群馬県教育委員会表彰に土谷芳治さんと前原博彰さんの2名、群馬県社会教育委員連絡協議会表彰に高草木博さんと小林セツ子さんの2名へ表彰状の授与がありました。

講演会は、講師に東京家政大学学長の山本和人氏を迎え「社会教育委員に求められる今日的な役割」行動する社会教育委員を目指して」と題し、「今日の社会に社会教育は何ができるか」「地域の社会教育を活性化するために社会教育委員事務局は何をすべきか」について講話されました。

引き続き、第4回みどり市社会教育委員会議が行われ、「第3期みどり市生涯学習振興計画」の確認と「催物の主催者が存在しない行事における感染防止策の徹底」の確認がされました。課題として「コロナ禍で社会教育委員に何ができる

防災を考える②

「耐震」

防災を考える時、まず何から始めればいいのかわからないという方は、自宅の耐震診断をお勧めします。特に1981年(昭和56年)以前に家を建てられている方は耐震診断をして適切な補強をしてください。

次に家具類の固定。大地震では家具類が転倒し、食器棚の食器などが落下、それが散乱し、けがや避



▲ リモートでの研究大会

のか」をそれぞれ考えてくることで閉会になりました。

難行動を妨げる要因になります。大きな地震による負傷者の30〜50%が家具類の転倒、落下によるものだったという発表もあり、家具類の転倒、落下防止対策は重要で急務です。地震はいつ起こるかかわからない、今、五体満足であったとしても一瞬で負傷者になってしまう可能性もあります。命を守るだけでなく、けがをしないためにも備えましょう。

活動の活性化につなげて 第4回笠懸公民館利用者の会理事会

みどり市笠懸公民館利用者の会第4回理事会が10月27日(火)に開催されました。理事会では以下3つの事業について協議されました。

まず公民館大掃除については、12月13日(日)に開催することが決定し、新型コロナウイルスの感染防止から屋外を中心に実施され、掃除終了後参加者に飲み物が配られる予定です。

利用者懇談会は、1月31日(日)13時半～15時半で開催されます。コロナ禍ですが、できるだけ多くの利用団体に参加して頂き、今後

の公民館活動などについて意見が聞けたらと理事たちは話し合っていました。

いこいの広場は11月15日(日)14時から笠懸公民館交流ホールで「カブアフラ」によるフラダンスの発表が行われました。今年度は、2月と3月に開催が予定されています。

地域が活性化するためにまた、利用者の皆さんの励みになるようにとの思いから開催します。ぜひ公民館へ遊びに来てと呼びかけています。

投稿募集

みなさんからの投稿を募集します

身のまわりの出来事や日ごろ感じていること、公民館に関する意見や感想など、なんでもお気軽にお寄せください。

◇本文(400字以内)

氏名、住所、電話番号を明記

◇しめきり 毎月10日

原稿は、郵送・ファックス・メールなどご都合のよい方法で提出ください。

※紙面の都合により掲載できない場合があります。予めご了承ください。

ボッチャのサークルが誕生!!

ボッチャクラブ

会員募集中!!

「ボッチャクラブ」

隔週金曜日 13時～16時

笠懸公民館 交流ホール

代表者：阿左美 文雄さん

会員11人

(男性2人 女性9人)

問合せ先：稲鍋 礼子さん

090-7207-9649

テレビでの放送も

ぐんま一番取材

チャを体験しました。

ボッチャは老若男女、障がいの有無に関わらず、誰でも楽しめるスポーツです。競技としてだけではなく、共生社会の実現に向けたツールの一つとして、活動が広がっていくといいですね。

まだまだ知名度が高くないボッチャですが、実際に体験し楽しさを味わってみてはいかがでしょうか。

みどり市は、普及に力を入れているボッチャについて、群馬テレビ放映の「群馬一番」の取材を受け、その様子が11月6日(金)に放送されました。

この番組は、群馬県の広報番組で地域の魅力を紹介する内容となっています。

ボッチャの紹介やルール説明が行われたほか、番組に出演しているみどり市観光大使・横塚沙弥加さんやお笑い芸人・タイムマシン3号の2人も実際にボッ



▲ 短期間でも実力アップ



▲ スタジオでの取材の様子

みどり市笠懸公民館利用者の会

(1) 利用者の会の誕生

笠懸公民館には、公民館を利用する団体・サークルで組織する「みどり市笠懸公民館利用者の会」という組織があることをご存じですか。利用者の会は、利用者の皆さんが交流し、お互いの理解を深めること、公民館との架け橋として、皆さんの意見を公民館に伝えていくことを目的として活動しています。今月の館報から、利用者の会のコーナーを設け、公民館に関わるいろいろな情報を発信してもらいます。

設立や活動を話す前に、旧公民館に触れてみましょう。



▲ 二代目笠懸公民館

旧公民館は、現在の図書館の北側にありました。ここには農作業を終えた青年団を中心とする若者や村民が集まり、夜遅く時には午前0時を越えるまで村の将来を熱く語りました。また、時には自

分たちで台本を書いてミュージカルまで披露したと聞きます。

その公民館も人口増とともに公民館の利用者が増えたことを受けて、現在の公民館が建設されました。きれいで充実した設備が無料で使えるところとあって、多くのサークルが誕生し、公民館を利用するようになりました。すると「みんなが便利に使えて良かったね」となるのですが、「はたしてそれで良いのか」という疑問も出てきました。

旧公民館では住民と職員が一緒になって活動をして

きました。小さな公民館では利用者同士の交流も活発で社交の場にもなっていました。ところが、現在の公民館になってからは、事務所で鍵を受け取って部屋に入る、終わったら鍵を閉めて公民館を後にするというサークルが増え、サークル間の交流はほぼ無くなり、公民館の実態は「無料で使える便利な施設」へと変容していきました。

この実態に問題意識を持った公民館職員や利用者たちは学習会を開設し、法律に示された公民館と社会教育の役割や「公民館はなぜ無料なのか」など、公民館の意義から利用者として知っておきたいことなどを幅広く学習する機会を作り学びました。

この学習を経て、自発的に組織されたのが笠懸公民館利用者の会です。次回は公民館無料の原則について記します。

「全集中」の演奏を披露

みどり・桐生地区中高生合同音楽祭

第18回みどり・桐生地区

中高生合同音楽祭が10月11日(日)13時から笠懸野文化ホール(PAL)で開催されました。出場校は大間々中学校・大間々東中学校・笠懸中学校・笠懸南中学校・大間々高等学校・桐生南高等学校・桐生女子高等学校・桐生市立商業高等学校・樹徳高等学校の9校です。新型コロナウイルス感染症防止対策として入場数は通常の半分、事前申し込みの座席指定で健康状態申告書提出と厳重な対策が取られていました。

前半は中学生が少人数のアンサンブルで息の合った演奏を披露し、後半の高校生は弦楽器やピアノなどもあり迫力ある演奏でした。中学生は3年生が引退し初めて1・2年生だけの演奏会で、「いいスタートができるよう頑張りたい」と意気込みを聞かせてくれま

した。

高校生は最後の定期演奏会がこの先、新型コロナウイルスの影響で中止になってしまつと、3年生にとってはこれが最後の演奏会になります。それぞれがいろいろな思いを持ち臨んだ演奏会は全員が「全集中」で、素晴らしい演奏をホールに響かせてくれました。



▲ 素敵な音色がホール内に響き渡る

新型コロナの ウソ？ホント！ みどり市市長会講演会

10月13日(火)みどり市市長会の講演会が笠懸野文化ホール(PAL)にて開催されました。例年であればこの時期、区長会は他県への視察研修を行っていました。が、昨冬に発生した新型コロナウイルス感染症の予防のため地元での講演会へと変更になりました。

講演会の講師は中原英臣さんで(医学博士、新渡戸文化短期大学名誉学長、ほか)「テレビで言えない新型コロナウィルス感染症等のウソ？ホント！」という演題で話されました。

冒頭、「マスク」「手洗い」「うがい」「三密を避ける」が感染防止の基本ですと言います。これは目に見えないウィルスへ対する自衛手段です。そして、学校の一斉休校という措置がありました。これは科学的根拠がうかがえません。なぜだろうと疑問を持たざるを得ませんでしたと言います。新型コロナウィルスで怖い

のは持病を持っている高齢者の方です。風邪に似た肺炎症状なので注意すべきでしょう。外国では新型コロナウィルスでたくさんの方が亡くなっています。日本では思ったより少ないですね。これは文化の違いで清潔好きな日本人は自己防衛意識が高いのではないかと思います。ところで、毎日テレビ等のマスコミで感染者数が発表されていますが、感染者数に患者数ではありません。数字に惑わされないように気をつけたいものです。

そして、最後に「健康はフォーマルでありたい」と言い、話を締めくくりました。



▲ 講師の中原英臣氏

貴重な体験を 古代米を脱穀

10月24日(土)に岩宿の里米つこクラブの第2回目が岩宿の里公園で開催され、子どもたちが古代米の脱穀を体験しました。

当初、10月17日(土)に開催される予定でしたが、天候不良のため延期されたもので、24日は天候にも恵まれ

無事に開催することができました。

第1回に引き続き今回も「古代米を栽培する会」のボランティアの協力のもと、実施され、岩宿博物館の職員やボランティアの方々の補助を受けながら、千歯扱きや足踏み脱穀機を使い脱穀し、その後、脱穀した米を唐箕(とらみ)にかけ選別する所までを体験しました。

今では、使う機会がほとんど無い道具を実際に使用



▲ 千歯扱きを使い脱穀体験

奉仕清掃 シルバー人材センター

みどり市シルバー人材センターでは、毎年10月をシルバー人材センター事業普及啓発促進月間と定め、清掃活動が行われています。

みどり市シルバー人材センターは10月16日(金)にみどり市内各3町でボランティア清掃をしました。東町は



▲ 作業に励む参加者

東老人福祉センター「まごころ」周辺、大間々は赤城駅周辺、笠懸町は農林業センター周辺です。

取材先の農林業センターでは、男性23人が参加。ヘルメットをかぶり植木の刈込みや周囲をほうきできれいにしていました。

シルバー人材センターでは、室内清掃、管理、草刈りなど、資格がなくてもできる、働く場を提供しています。

働く意欲を持つ高齢者に「地域貢献・生きがいの充実・生活の安定」が目的だそうです。

会員が少なくなっており、会員募集しているとのこと

四区防災訓練



▲ 消火訓練を行う住民ら

10月18日(日)10時より笠懸町第四区地区公民館において四区自主防災会(石原会長)主催による防災講座及び避難訓練が行われました。石原会長の挨拶に続き、みどり市危機管理課の原さん、峰岸さんによる防災講座が開かれ、地区の役員や住民など約35人が参加しました。内容は災害時の避難所の開設についてや災害への備えの基本である、より安全な場所に身を寄せる大切さや心がまえを丁寧に話して

いました。

昨年10月13日(日)に関東地方を縦断した台風19号に関する報告や情報等のほか、笠懸公民館に18世帯28人が避難してきたことなど、全国各地の事柄も詳しく語っ

てくれました。

また賞味期限が迫った備蓄品の配布も行われました。最後の質疑には自主避難について学び参加者も大いに納得し閉会となりました。

コラム 豆電球



「江戸時代はゲテモノ食いだっただ！」

虫や動物など、グロテスクで普通は口にしないものを食べることを「ゲテモノ食い」という。いいイメージのない言葉だが、江戸庶民はみんなゲテモノを使ってゲテモノを食べていた。

ゲテモノを漢字で書くとな手物となる。これは上手物(じょうてもの)の反対語で、もともとは並の品、高価で精巧な一品作りの品に対し、日常用いる大衆的・郷土的で質朴な雑器のことを指していた。つまり、江戸庶民が使っていた無地のセ

トモノ茶碗はゲテモノで、有田焼茶碗はジョウテモノだったということだ。

これと同様に値段が安い素朴な食べ物や田舎料理など、当時一般庶民が食べていた料理をゲテモノと呼んでいた。当時はゲテモノといつて眉をひそめる人などいなかったわけだ。

昭和に入って、人々の暮らしが豊かになり西洋化の波が押し寄せてくると、それまで普通に食べられていた素朴な食べ物や田舎料理がさげすまされるようになり、やがてゲテモノが普通の人々が口にしないものという意味までおちていったのだと考えられている。ちょっと悲しい話だ。

学びたいことが
あったら

自主申請制度

(生活技術・趣味の教室)



笠懸公民館には、自主申請で学級・講座が開設できる制度があります。次の条件を満たしていれば、笠懸公民館の主催の教室として学びたい学習ができます。

- ①受講希望者(申請者)が15人以上いること。
- ②学級・講座の開催中の運営が自主運営できること。
- ③申請者だけでなく、広く市民によびかけること。(『かさかけ公民館だより』等を使い広報します)など市民の方々の希望にそった学級・講座が組み立てられます。なお、予算に限りがありますので、希望者は早めに職員に相談して下さい。

また、学習内容の相談や講師の紹介もしますので、お気軽に公民館にお問い合わせください。

こえの ひろば

このコーナーは、市民のみなさんの交流の場です。サークルの会員募集やイベントのお知らせ、投稿など、何でも原稿をお寄せください。(しめきり毎月10日)

お邪魔しま〜す♪

サークル 紹介 ③③



今回お邪魔したのは、そば打ちサークル「あざみ手打ちそば同好会」です。

料理実習室の各調理台に

年末年始の休館のお知らせ

笠懸公民館は
**12月28日(月)から
1月4日(月)まで**
休館となります。
ご理解とご協力をお願いします。

笠懸短歌サークル 十月例会より

リフォームせし一番風呂の特権に	上村 征子
浴して婆々の骨休めなす	
週末に仕事の悩み持ち帰り	上山 利夫
散歩と本で気をまぎらわす	
八十路にて農に励まむ我が身にも	橋内 文夫
活気みなぎり今日が始まる	
秋雨の流るるつるに赤紫	久保田茂子
朝顔咲くをひとり見てを	近藤ふさ子
「いらっしやい」挨拶することサファニー	
広がりて咲く玄関前に	関口 定夫
カーテンを洩るる明かるさ計りつつ	
秋雨の今朝うかと寝過ごす	
手土産にカステラさげて来し友と	平山 勇
酒酌み交はす長月の夜	

1人ずつ立ち、大きなこね鉢に各自で用意したそば粉と小麦粉を均等に混ぜ、水を少しずつ加え、水回しを始めていました。ここが肝心とのこと。丁寧に素早く作業をこなしていました。その後も練って丸めて伸ばす工程を手際よく行いました。講師が回りながら、力の入れ方や伸ばし方のアドバイスをしていました。切り終わるとパックに入れ持ち帰ります。家族にも喜ばれているそうです。「やっぱり手作りにはうまいやねえ」と。

【代表】山口 由実子さん

【連絡先】090-

8688-8465

【会員数】13人

(男性7人女性6人)

【活動日】第2・4木曜日

13時〜

(現在は新型コロナウイルスの影響で第4木曜日のみ活動)



▲ そばを丁寧に切る会員

投稿

七五三の豆知識

FUYUMI

平安時代は、3歳の男女が行い、それまで剃っていた髪を伸ばし始める「髪置き」の儀(かみおきのぎ)として5〜7歳になると初めて袴を身につける「袴着の儀(はかまぎのぎ)」あるいは「着袴の儀(ちゃっここのぎ)」という儀式がありました。

鎌倉時代は、着物を着る

際に紐ではなく帯を結ぶようになることをお祝いする「帯解の儀(おびとぎのぎ)」という儀式がありました。江戸時代は、髪置きの儀が男女における3歳のお祝い、袴着の儀が男の子のみの風習になり、帯解の儀は室町時代になると男女共9歳で行われ、江戸時代末期から男の子は5歳、女の子は7歳に変わりました。江戸時代になると武家や裕福な商人たちの間で行われ、明治時代にこれら3つの儀式をまとめて「七五三」と呼ぶようになりました。11月15日に七五三のお祝いをするのは、徳川家光が自身の子である、後の徳川綱吉の健康のお祈りをした日にちが関係しているそうです。お祈りをしてもらった綱吉はその後、元気に育ったので、この日を七五三の日として定められた経緯があります。



四季の会 十月句会



藪みようが黒き実のなる静江庵
立ち飲み酒の昭和なつかし秋の暮
秋の色紫雲たなびく母の墓
母に似る夫の仕種やササゲ抓む
越前蟹の解禁待つや北陸路
つれあひの古稀を祝ふや栗御強
那須の友妻と訪ねる紅葉谷
陽にはゆる苔数多や秋のバラ
紫に漂ふ雲や秋の暮
月一の獣医にかかる秋の猫
ハヤト瓜油炒めも旨かりき
焼サンマ腸ごと食す夕餉かな
孫と行くコスモス畑で逸れをり
はかどらぬ片付けあまた枯蟻螂
コロナ秋国連までもゆるがせり
満月に照らされ友と朝帰り
さはやかに脳活性せしデイケアー
白粥を仏の妻と秋の朝
新蕎麦や市内を走るMAYUに乗り
実家より里芋とどく夕厨
秋の浜かいがら拾ふ舳ひ船
ふりむけば妻の声かと秋の暮
新米でおにぎり握る子ら元氣
流木に秋草生ける独りの家
老ふたり腰をくの字に稲を刈る
茸狩まよはぬように猫を連れ
目薬をさす何時もの日課秋の暮
子らを連れコキアの丘やサンセット
恵比須講の用意の忙し社かな
吾の手を逃れし笑ふ秋の蠅
山の水汲みて見渡す初紅葉
白波の流木岬秋の浜
しばらくは喪服のままに愁思かな

家住 佳香
糸井 佳醉
中西 幸寿
高野 光詢
窪田 劍邦
中谷 邦女
小林 狐一
前原 紫蘭
佐藤 小春
東宮 春水
金井 漢江
新羅 光海
裾沢 春蘭
山本 草秋
小林 華笑
川岸 星漢
徳田 夕子
吉田 和義
糸井 初音
冠 二郎
金井 光順
多田 冬薔薇
小此木 和音
横倉 雅
村田 小町
糸井 梅光
須田 仙寿
村田 紅蘭
童 鳥海
韓 百日紅
石原 青蓮
宇野 勘大
金 光月

投稿

テクテクお城歩き(16)

「高遠城」 歩遊人

高遠城は長野県伊那市にある日本100名城の一つ。1545年武田信玄が高遠頼継の高遠城を攻略し、その後大規模な改修を行ったといひます。三峰川の断崖を背に本丸、二の丸、三の丸等を配置しましたが、武田勝頼の実弟仁科盛信が城主の時、織田信長軍に攻められて一日で落城したといひます。本丸をはじめとして各曲輪は空堀で区切られて信玄流の築城の面影を残しているといわれ、本丸の空堀は比較的良好な状態で残っているようです。明治時代に堀の一部が埋められたり、サクラ(タカトオコヒガンサクラ)が城址に植えられ、これが現在城内を彩り尽くす様は見事です。特に残雪に輝く中央アルプスを借景にした景観は素晴らしいですね。桜の開花時に訪れられたらいかがでしょう。また、近くに復元され

た江島囲み屋敷があります。大奥の派閥争いに巻き込まれた江島は34歳で高遠に幽閉され61歳で没するまで住んでいたといひます。なお、高遠歴史博物館の歴史コーナーに城の復元模型などがあります。



▲ 城址公園内の高遠閣

【お詫言】
「かさかけ公民館だより159号」において、6面のいこいの広場の曜日が間違えていました。正しくは(日)です。ご迷惑をお掛けしました。

ちよひと一息



私は書道の秋の検定に8年ぶりに挑戦しました。課題は条幅(1)楷書 北魏「高貞碑」(2)行書 唐褚遂良書「哀冊」(3)草書 唐孫過庭書「書譜」(4)自運(草書)の四体と設問①北魏の書②褚遂良③孫過庭について半紙に毛筆で各百字程度合計3枚書きます。

締切りまで作品を何度か何度も書き、墨すりは夜の空き時間に済ませ、(1)から(3)は臨書で難しく全部で200枚以上は書きました。とうとう仕上げがら書いた中から選り落款を押し提出しました。その時の気持ちは、「ホッとしたのと今自分の持っている力を出し切った」でした。そんな中10月4日に先生から連絡があり、「合格したよ。これからが勉強、やっとスタートに立ったのよ」と言われました。本当にその通りです。今までは自分が書くばかりでしたが、これからは学問にも力を入れ自分自身を磨いていこうと決意しました。(風鈴)